

静岡県中央新幹線環境保全連絡会議 第24回地質構造・水資源部会専門部会

2026年3月19日

静岡県

今後の主な対話項目【トンネル発生土編】

主な対話項目28項目中、発生土置き場関連は全5項目

※灰字: 対話完了項目

青字下線: 今回、引続きの対話

主な対話項目

(1) 土石流、地すべり、深層崩壊等の大規模な土砂移動、濁水の流出、細かい粒子の底質への堆積などを想定し、生態系全体や景観への影響を考慮した対策

※ 仮に、発生土を有効活用する場合は、その活用案に応じた対策を追加で検討する必要がある。

(2) 全ての発生土置き場についての詳細な計画(立地、設計、モニタリング等)

(3) リスク管理の手法とリスク対策(リスクマトリクス、リスクマップを使用)

(4) ツバクロ発生土置き場について、以下の点を踏まえた、影響の予測・評価及びその対応 **※対話完了**

(ア) 広域的な複合リスク(土石流の同時多発の可能性等)

(イ) 対岸の河岸侵食による斜面崩壊の発生リスク

(ウ) 土石流の緩衝地帯としての機能低下

(エ) 予測のシミュレーション条件

(オ) ツバクロ発生土置き場の断層(推定)の影響

(5) 自然由来の重金属等を含む要対策土の処理 **※対話完了**

※(1)(2)(3)について、通常土に関しては対話完了

議題1 藤島発生土置き場(設計)

【対話項目(2)】

- ・ 全ての発生土置き場についての詳細な計画(立地、設計、モニタリング等)

事務局説明内容

【対話項目の背景】

- 令和7年10月 第22回地質構造・水資源部会専門部会
 - ・ JR東海が藤島における封じ込め(盛土)処理計画について説明した。
- 令和8年2月 第23回地質構造・水資源部会専門部会
 - ・ JR東海が藤島の立地選定経緯を改めて説明し、再確認した。

<委員意見>

- ・ 藤島が大井川の侵食作用等により影響を受けるリスクについては、モニタリングとリスク管理により対応していく。
- ・ 専門部会として要対策土の発生土置き場は藤島であるとの前提のもと、設計、モニタリングについて対話する。

【本日の対話内容】

- JR東海が藤島での盛土の設計について検討したので、内容を確認する。

3

議題2 藤島発生土置き場

(モニタリング、生態系全体への影響を考慮した対策)

【対話項目(2)】

- ・ 全ての発生土置き場についての詳細な計画(立地、設計、モニタリング等)

【対話項目(1)】

- ・ 土石流、地すべり、深層崩壊等の大規模な土砂移動、濁水の流出、細かい粒子の底質への堆積などを想定し、生態系全体や景観への影響を考慮した対策

事務局説明内容

【対話項目の背景】

- 令和8年2月 第23回地質構造・水資源部会専門部会
 - ・ JR東海がモニタリング計画を説明し、対話を行った。
- 令和7年6月 第20回地質構造・水資源部会専門部会
 - ・ JR東海が通常土の発生土置き場における生態系全体への影響を考慮した対策について説明した。
 - ・ 通常土については適切と判断できると確認されたが、要対策土に係る生態系全体への影響を考慮した対策については、今後引き続き対話を行うと整理。

【本日の対話内容】

- JR東海のモニタリング計画について、引き続き対話を行う。
- JR東海が生物多様性部会・生活環境部会委員の意見を伺い、その意見を踏まえて生態系全体への影響を考慮した対策を検討したので、内容を確認する。

4

【対話項目(3)】

- ・ リスク管理の手法とリスク対策

事務局説明内容

【対話項目の背景】

○令和8年2月 第23回地質構造・水資源部会専門部会

- ・ JR東海は、オンサイト処理におけるリスク管理の考えを説明した。

<委員意見>

- ・ オンサイト処理のリスク管理については、土壤汚染対策法の基準に則り行われることが確認できたので専門部会として妥当と考える。
- ・ 封じ込め処理(藤島)リスク管理については、盛土の設計やモニタリングの計画内容を踏まえてJR東海にリスクマトリクス・マップを作成いただき、次回専門部会で対話する。

【説明内容】

- JR東海が検討した封じ込め処理(藤島)に関するリスクマトリクス・マップを確認する。